

苫小牧市教育委員会会議録

会 議 区 分	苫小牧市教育委員会 第 9 回 定例委員会
日 時	令和6年9月27日 自 15時00分 至 15時36分
場 所	第二庁舎2階南会議室
出席委員	教 育 長 福 原 功 委 員 佐 藤 郁 子 委 員 齋 藤 智 子 委 員 岡 田 秀 樹 委 員 高 橋 憲 司
欠 席 委 員	
会議録署名委員	佐 藤 郁 子 委員
会議録作成職員	総務企画課主事 根 田 笑 里
事務局職員	教 育 部 長 園 田 透 教 育 部 次 長 山 地 吉 明 教 育 部 次 長 齋 藤 貴 志 教 育 部 参 事 東 峰 秀 樹 教 育 部 参 事 荒 関 基 高 総 務 企 画 課 長 下 濱 辰 哉 総 務 企 画 課 主 査 山 口 元 総 務 企 画 課 主 事 小 坂 沙 羅
会 議 案 件	別紙のとおり
会議の経過概要	別紙のとおり

1	委員会開会の宣言（福原教育長）・・・15時00分
2	会議録署名委員の指名（佐藤 郁子 委員）
3	会議録の承認
	（福原教育長） 第8回定例教育委員会（令和6年8月21日開催）の会議録について、このとおり調製することとしてよろしいでしょうか。
	（一同「はい」の声）
	-会議録どおり承認-
4	教育長の報告
	（福原教育長） 8月21日開催の第8回定例教育委員会以降の主な動きなどについて報告をさせていただきます。初めに8月22日、23日に北見市で開催されました、令和6年度北海道都市教育委員会連絡協議会定期総会は大変お疲れ様でした。後ほど分散会での様子などについて、各委員さんからコメントをいただきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。
	次に、第7回市議会定例会が今回9月5日に開会し、13日に閉会をいたしました。一般質問では21人の議員が質問に立ち、教育に関しては11人の議員と部活動地域移行、不登校対策等について質疑を行いました。部活動地域移行に関しては、年々活動が縮小されている部活動の現状に、子どもたちに多くの選択肢を提供する地域移行にしっかり取り組むと答弁したほか、不登校対策に関しては、すべての学校に校内教

育支援センターを設置すべきとの提案に対し、不登校の子供に対し、先生たちも親身
に対峙しており、校内教育支援センターの設置は子供たちの選択肢の一つとして私自
身その必要性を感じており、設置に向けた財源確保などに努めることを答えたところ
でございます。他の質疑につきましては、後ほど改めて報告をさせていただきます。
10日の議案審議で苫小牧市教育委員会の任命について、高橋憲司委員が令和6年1
0月2日をもって任期満了となるため、再び高橋憲司氏を任命したい提案に対し、議
会の同意が得られました。昨日（9月26日）市長より辞令を交付させていただきました
ましたが、本市教育行政の推進に引き続きお力添えを賜りたく、よろしくお願いをいた
します。
最後に、18日に白老町の北海道栄高校の苫小牧移転に関する説明等のため、学校
法人京都市育英館の松尾理事長、北海道栄高校の木村校長ほかが来庁され、岩倉市長と
の面談に同席をしました。
市長からは学校を取り巻く環境は理解しつつ、白老町、在校生及び保護者との関係な
どクリアが必要な課題に対し、理解を得た上で本市の立場が明確になることを申し上げ、
さらに学校周辺の地域住民、本市の私立高校にも理解を得られるよう求めたところ
でございます。市教委といたしましては、市と同様に、町、在校生、保護者地域、
そして本市の関係先等に丁寧な説明の上理解を得て進めるべき案件と考えており、仮
に正式決定となれば、生徒の選択肢が広がるほか、高大連携による波及効果などの期
待を持って、動向を注視してまいりたいと考えてございます。私からは以上でござい
ます。私からは以上です。
報告は以上ですが、何かご質問等ございませんか。
(一同「なし」の声)
5 議 案

(福原教育長) 本日は審議する議案はございません。
6 報告・協議
報告(1) 都市教育委員会連絡協議会定期総会(分散会)について
(福原教育長) 委員の皆さまには、8月22日に北見市で開催された都市教育委員会連絡協議会 定期総会に参加していただきましたが、その分散会で「インクルーシブ教育に向けた取組について」をテーマに各市の取組や課題について意見交換をしていただきました。
各グループでどのような意見が交わされたか、その感想などご発言いただきたいと思います。それでは佐藤委員から順に簡単にご発言いただければと思います。
(佐藤委員) 分散会の報告をさせていただきます。私は分散会のEグループというところに配属されまして、進行役の司会の方が函館市の教育長、このほか岩見沢、網走、江別、砂川、歌志内、富良野から出席された教育委員の方と意見交換をいたしました。
苫小牧市の資料と同じように、その現場、教育現場をどのように充実するかというところについてのそれぞれの教育委員会の大きさ、または児童、学生数によって随分変わりますが、ほぼ似たような状態で教育現場の中の教育を充実する、あるいは、特別支援の教育推進委員会を充実させると。そういうところは共通しておりましたが、その中で二つ、非常に特徴があるといいますか、印象づけられたものがございまして、一つは岩見沢市の活動でございます。岩見沢の活動で、特に対応する職員について、また職員に対しての研修が充実していたということで、特別支援教育コーディネーターあるいは推進委員という名前なのですが、その小中全員、高校も私立高校1校入れるということなのですが、広島教育大学という言い方をしてましたが、広島大学の教育学部の先生と連携をして、年5回情報交換をして研修をします。研修は年3回60

時間、非常に大きな行事になっているということなのですが、非常に好評で3年連続
続いているということでございました。岩見沢市ピア・サポートというところで紹介
されていました。5月の連休明けの3日間、夏・冬休み6時間ということで、1回の
教職員の出席は100名ということですので、岩見沢市の規模から考えると非常に充実
したものなのではないかと思いました。
もう一つは教育現場以外として、富良野の教育委員の方からのご報告なのですが、
野球のクラブチームを持ってるということで、その中に自閉症の自覚を持ってる男性
で、自分も理解してるし、親御さんも分かってるというような状態で、入りたいとい
うので入団したと。その時にそのクラブチームのクラブメイトはそれを受け入れて、
自閉症の症状のある本人も今までとは違って、非常に落ち着いてそのクラブの中で野
球をしているというような報告がありました。学校に限らず、教育現場以外でもこれ
から先考えていかなければいけないことなのではないかなと思いました。
教室内それから教育現場の対応なのですが、受け入れることに慣れるというところ
で、現実または周りに求められる知識というのを岩見沢の例をとっても、充実するよ
うにする、あるいは受け入れる、または通うということも、その現実、自分の置かれ
てる状態を理解するということも必要なのではないだろうかと思って聞いておりま
した。同時あるいは並行的に教育内容を提供するということを目指しておりますが、
個人差があるという、そういうことも考えて、特別支援の教育の理解をして周知する
ということが、教育現場以外でも必要なものではないかというふうに感じておりまし
た。 以上です。
(福原教育長) 齋藤委員お願いいたします。
(齋藤委員) 私のグループは北見市の教育長を中心に北広島市、滝川市、江別市、
美唄市、旭川市の教育委員の方と各市の取組について伺いました。
苫小牧市のことは、ここに書いてあることを述べまして、また事業改善リーフとい
うのを実際に見ていただきまして、どのように先生方が共有をしてるかというのを具
体的に紙面で見ていただいて、皆さんいろいろと発見とか学びとかあったようです。

それで、私が一番ちょっと心に残ったのは、北見市では性的マイノリティのための専用トイレが設置されていること。また、ジェンダーレスの制服が導入されてることで、いち早く進んだ、性的マイノリティに対しての対処が行われてるなど感じました。
そしていろいろな意見が出た中で、結果的に全ての委員さんが共通して感じたことは、まずインクルーシブを行うにあたって、皆さん高い志をお持ちなのですが、やはり人材の確保が難しい。私はやはり先生方の人材の確保が難しいという観点からしか今までは考えてなかったんですが、先生だけではなく看護師の人材の確保が難しいという話が結構活発に出ていました。看護師の方の日給とか、もし各市で看護師を配置するなら、変な話、どのぐらいの日給や月給でやってるのかっていうことは、皆さん大変関心があるようでした。支援の必要なお子さんが必要な中で、看護師を配置するという要望、各学校からの要望がとても高いのだなということを感じていくとともに、先生だけではなく、看護師の方をどのようにこれから採用して、人材を確保していくことが大きな課題なのかと思いました。
それともう一つ、共通理解としては、幼小連携をより深めていかななくてはならないと。学校からだけでこのインクルーシブを考えるのではなくて、学校に入ってきたお子さんが幼稚園や保育園の時にどのような過ごし方をしていて、どのような保護者の考え方のもとにこれまで育ってるかっていうことをきちんと連携していくことが大切だということを話しました。あともう一つは、保護者のインクルーシブへの理解が、まだまだ、なかなか得られない場面が多いという感想を皆さんお持ちでした。保護者の方がやはりその、支援の必要なお子さんですとか、性的マイノリティの方の当事者の保護者の方の理解をもっともっと進めていかないと。子供同士はそういう偏見がなくとも、保護者にもまだまだそういう、色眼鏡で見ている点があるので、その壁をどうやって取っ払っていったらいいのかというのが今後の課題だなということで、共通理解を確認し合って分散会を終えました。以上です。
(福原教育長) 岡田委員お願いいたします。

(岡田委員) まず、根室市からインクルーシブ社会の実現を目指す学校教育社会教育の推進ということで発表がありまして、インクルーシブ教育は障害者、障害のみならず、生活環境の違いや学習の遅延の違いなど、あらゆる違いを個性と捉えて、努力を生かして教育を進めていくという、そういうところで、障害のある方の特別支援学級だけではなく、インクルーシブ教育を広く捉えていらっしゃるというところで、まず私もそういうものなんだなというふうに理解いたしました。
根室市からは、少子化などで生徒が減少していく中の学校統合と一緒にリンクして、そういったインクルーシブ教育を推進していくと。そういった中で、複数教科同時進行型による自由進度学習というか、それぞれの個性に合わせた学習の方法、それを生徒さん個人のいろんな選択の余地も残しながらいろいろ進めていくっていうようなところで、個性に応じた学習を進めていくという根室市の発表がありました。それに基づいて、分散会でのそれぞれの地域からのお話がある中で、やはり特別支援学級についての特別支援員の方の人材の不足というところでお話がありました。教員のOBの方をお願いしてるというようなことで、けども、生徒さんが卒業した後の支援だとかを考えると、人材の確保が難しいところの説明がありました。また、特別支援学級の場合は、保護者の方からの相談を受けるのが一人の教員だけ、その相談を受けた教員だけでは対応できないところがあるので、いろいろオープンな中でのそういった対応を進めていく、一人の教員にこう悩みを限定しないで、情報を共有しながら対応していくということの話がありました。
(福原教育長) ありがとうございます。高橋委員お願いします。
(高橋委員) 私たちのグループは旭川の教育長を中心にした8名でグループのお話をさせていただきました。インクルーシブ教育に関しての学校の取り組みを主にお話したのですが、大体皆様が言われてたとおりですね、介添員だとか、保健関係を扱う方々の人材不足が本当に一番大きな問題だということとあわせて、学校自体の設備もまだまだ整ってない中で、考え方は充実してるけれどもうまく機能はしてないというところが見受けられるというお話が大きく聞こえました。

あと、苫小牧市の取組の中で一般教員に対する学習の機会というのがあったという
のが、お話をさせていただいた中では、これもその地域と学校の規模感でかなり温度
差があるというのが正直なところなのかなと改めて理解をしました。保護者に関して
もいろいろとお話が出たのですが、学校側でできることとできないこととの差が
保護者のほうではあまり理解されてないというような話も出まして、そこに関しては
しっかりとして、どのような状況の中でこういう形ができる、これ以上のことは
できないといった丁寧な説明が必要である一方で、逆に子供たちというのはもう素直
にそれを受け入れていって、今の環境下の中こういうこと、我々の時代とはちょっと
違う感じで、子供たち自体が子供たちをしっかりとサポートできるだとか、そういう
子供たちに対するケアというものを心の醸成というのはしっかりできてるのかなと感じ
取ることができました。私から以上です。
（福原教育長） 最後に私の方ですけれども、当初岩見沢の教育長が座長で私は一構成員
の予定でしたけれども、岩見沢の教育長が急遽欠席となり、私が座長となったため
教育長は誰もおらず、全員教育委員でした。説明は皆さん、網走とか北見、恵庭、石
狩等々、私を入れて8名で構成されていましたが、皆さん調査票の説明をした状況で
す。私もそうです。その中で特別支援教育の話になった時に、私から特別支援学級の
数値とか特別支援学校の通知という話をした時に、特別支援学校に皆さん食いついて
ですね。要はうちに特別支援学校ができてまだ十数年っていうところでどうやって誘
致を、道立学校ができたのかと。平取の関係とかいろんなことがあって、皆さん結局
市外の特別支援学校に通わせるのが大変だっていう思いを持ってられて、学校も一生
懸命やってるけども、我がまちにも特別支援学校が欲しいとみんな同じことを言って
たので、なかなか今の時代新設というのは難しいんじゃないかというような話をして
私のグループは終わりました。以上ですけれども、何か言い忘れたことや他に何かござ
いましたらお願いします。よろしいでしょうか。
（一同「はい」）

(福原教育長) それでは、報告第1号については終結をいたします。いただいたご意見を参考に、事務局にはインクルーシブ教育のさらなる推進を図るようお願いをしたいと思います。
報告(2) 第7回市議会定例会の一般質問について
(斎藤教育部次長) ー第7回市議会定例会の一般質問について説明ー
(福原教育長) 質疑に付します。何かございませんか。
(一同「なし」の声)
(福原教育長) ないようであれば質疑を集結してよろしいでしょうか
(一同「はい」の声)
(福原教育長) それでは、報告第2号の質疑を集結いたします。
報告(3) 教育委員会職員の人事異動に係る協議について
報告(4) 令和7年度 教育費予算(概算要求)について
(福原教育長) 次に、報告第3号及び4号についてですが、報告第3号については、人事案件であること、第4号については、令和7年度予算についてであり、市議会にてお示し、審議する案件であることから、現時点で公開することは適切でないと考えられますことから、教育委員会会議規則第21条の規定により秘密会とし、審議したいと思いますが、よろしいでしょうか。

(一同「はい」の声)
(福原教育長) それでは報告第 3 号及び第 4 号を秘密会とすることに決定いたしました。関係者以外は退席をお願いいたします。
7 その他
(福原教育長) 次に、その他でございますが、事務局、委員の皆様を含めて、何かございますか。
(一同「なし」の声)
8 委員会閉会の宣言 (福原教育長) ・ ・ ・ 1 5 時 3 6 分